

日本語での交換留学

東呉大学

許舒評

学籍番号 K2690010

日本での半年間の留学生活では、多くのことを学び、貴重な経験を得ました。学校生活も日常生活も毎日が充実していました。

学業面では、特に印象深かったのは「日本伝統芸能」です。伝統文化を深く体験でき、舞台裏の見学や出演者との交流もできました。また、留学生向けの日本語授業を通して、自分の日本語力の不足を痛感しました。専門科目では日本人学生向けの速い語り口に必死でついていく必要がありましたが、その努力のおかげで聴解力が大きく向上しました。

日常生活も観光も忘れられない思い出です。お茶大のキャンパスで日本人学生と一緒に閉じ込められた狸を助け、仙台に行つてずんだシェイクや牛タンを味わい、日本三大花火の一つである「長岡花火」を目の前で鑑賞して、帰りの激しい電車混雑にも参戦したのもいい思い出です。

一方で、毎日が試練と挑戦の日々で、後悔や悔しさも多くありました。来日前、奨学金の申請条件を誤解して申し込めず、悔しくて寮で泣いたこと、最初の一ヶ月でお金を使いすぎて来月の生活に不安を抱え体調を崩してしまったこと、長岡花火を見るために重い荷物を引きずりながら電車に間に合わせようと必死に走ったことなど、苦しいことや辛い出来事は数え切れませんでした。

しかし、これらの経験を通して成長しました。奨学金の件では「わからないままで済ませると、後は大きな後悔になる」と知り、金銭面の失敗からは「お金を使う意味を常に意識するべきだ」と気づきました。必死に走った経験からは「目標のためなら苦しくても耐え抜く必要がある」と悟りました。「勇気」、「知恵」、「根性」が組み合わされたこれらの経験は、私にとって大きな成長の旅でした。快適な環境を離れたことで初めて本当の自分と向き合い、自分の欲求、限界、長所、短所をより明確に理解できました。

来日前は、この半年が「特に何もなかった」と一言で終わってしまうのではないかと不安でしたが、今回の留学は予想を遥かに超える素敵な体験でした。

石井先生、市原先生のご指導に心より感謝申し上げます。そして、各地を共に巡ってくれた台湾人留学生の皆さんにも感謝しています。半年間の日本留学はとても楽しかったです。

